

《5月の番組ガイド》

鳥取市広報番組

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷にぎわう「砂の美術館」
- ▷湖山地シーズンウォーク
- ▷新コーナー「ジオたび」など



「砂の美術館 第7期展示」



中野キャスターがガイドと一緒に山陰海岸ジオパークをめぐる！



静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント、募集、相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内しますで再放送します。

いなばぴよんぴよんネット 自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

田植えの様子や特産の二十世紀梨の摘果・小袋掛けなど、市内各地の農作業の様子をお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

児童生徒の農業体験や各地の公民館などで行われる行事や地域の話題をお伝えします。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースやお知らせを手話や字幕で紹介。また、あいさつなど初歩の手話を1年間にわたり紹介します。

122ch (第2放送)

週替わりでリクエスト番組やイベント番組を再放送。また、テレビでしゃんしゃん体操を毎日放送中！

番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください！

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111  
※放送予定は予告なく変更することがあります。  
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。  
http://www.inabapyonpyon.net



お腹が空いたらお昼ご飯！おにぎりの具は何かな？

昨年の10月から月に2・3回、親子が一緒に自然の中で過ごす「おさんぽ会」を実施。初めは1組の親子の参加だけでしたが、回を重ねるごとに参加者が増え、多い時では70人も大所帯で自然を散策しました。「自然の中の保育に興味を持つてくれる方がたくさんいる」と、徳本さんは手ごたえを実感しました。

徳本さんらは、活動の場となる里山や土地の所有者をはじめ、地域のみなさんに活動への理解を得るためのあいさつ周りも積極的に実施。すると、「うちの敷地は自由に使って」「しいたけの原木をあげる」「山に実のなる木々を植えていこう」など、地域のみなさんからは活動を後押しする暖かい提案が次々とありました。「地区のみなさんに感謝しています。その分、子どもたちの元気な声を聴かせてあげたい」と、徳本さんは恩返しを誓います。

風りんりんのコンセプトは「待つ」こと。先生は大人でなく自然です。「例えば雪の日に着るチャックが閉められず、ワツと泣き出しても待ちます」と徳本さんは断言。「待つことで子どもはできるよになります。その経験は、私たちが思っているよりもずっと大きい自信になっていくのではないのでしょうか」と訴えます。「好きな時に、好きなことを、好きな時間だけさせてあげる。それを大人が見守

る」。これが、徳本さんの子育てに対するポリシーです。「鳥取は、森や里山、海、砂丘など、自然が全部そろっています。森のようちえん王国になれる可能性を秘めています。すばらしい子育て環境だとPRしていきたい」と徳本さん。鳥取市の森のようちえんの先駆者として、今後の活動に意欲を見せています。風りんりんの活動はまだ始まったばかり。鳥取の大自然の中、伸び伸びと笑顔いっぱい過ごす子どもたちの将来が、とても楽しみです。



代表 徳本 敦子 さん



副代表 河上 啓子 さん

「私は本当に心配性の親でした」と、徳本さんは自身を振り返ります。「危ないと思わない、早く」をなるべく言わず、子どもが自力でやりとげるのを「待つ」という園の理念に共感。鳥取市に自ら森のようちえん 風りんりんを開園するに至りました。

代表を務める徳本敦子さんは3児の母。過去に1年間、智頭町の「森のようちえん まるたんぼう」に子どもを通わせていました。「だめ、汚い、危ない、早く」をなるべく言わず、子どもが自力でやりとげるのを「待つ」という園の理念に共感。鳥取市に自ら森のようちえん 風りんりんを開園するに至りました。



田んぼでカエルを発見！

「開園するために、何をしたいのかわからなかった」と徳本さんは言います。まず始めたのは聞くこと。知人、友人、まるたんぼうのスタッフにたくさん相談し、多くの助言を受けました。そして、

地域の支えで開園へ

「開園するために、何をしたいのかわからなかった」と徳本さんは言います。まず始めたのは聞くこと。知人、友人、まるたんぼうのスタッフにたくさん相談し、多くの助言を受けました。そして、

シリーズ 元気です

146

子どものキラキラ 輝く瞳を見たい！

鳥取・森のようちえん 風りんりん

心配性ママが一変

鳥取市宮谷、山並みや田園風景が美しいこの地域に響く子どもたちの笑い声。「鳥取・森のようちえん 風りんりん」に通う子どもたちの声です。風りんりんは、今年4月12日に開園し、現在、7人の子どもたちが通っています。園舎はなく、里山や森林、川など、自然体験ができる場所全てがフィールド。子どもたちは、自然の中を散歩しながら植物採取やかけっこなどをしながら遊びます。雨が降ろうが、雪が積もろうが自然の中へ出て遊びます。それが、風りんりんの特徴です。

「あるある」と思うことは、全てしていったそうです。徳本さんを変えたのは、まるたんぼうへの通園がきっかけ。子どもたちは、自然の中で過ごすことで風邪を引きにくくなり、泣き虫で甘えん坊だったのに、興味あることに突き進む力がついていきました。徳本さんは「子どもにはこんな大きな力があるのかと実感し、任せられるようになりました。すると、肩の荷がスッと降りたように感じ、子育てがすごく楽になりました」と語ります。「この感動を多くの人に知ってもらいたい」。この気持ちで、徳本さんを突き動かしました。

河上さんは、「初めは坂道を登れず泣いていた子が、2回目はスイスイ登ったり、母親の後ろに隠れている子が1人で道を探し回るようになったりと、自立というものを実感しています」と、森のようちえんの力を語ります。

本さんの誘いを受けて、風りんりに携わることを決断。「けいちゃん」と子どもたちから親しまれ、お姉さんの存在になっていきます。

河上さんは、「初めは坂道を登れず泣いていた子が、2回目はスイスイ登ったり、母親の後ろに隠れている子が1人で道を探し回るようになったりと、自立というものを実感しています」と、森のようちえんの力を語ります。



山登り、落ち葉がふかふかで転んでも楽しい